



## 002\_deficiencies\_of\_Four\_deities

錆絵蔵は、大変美しい土蔵であるとともに、  
多くのストーリーが隠されているように思います。

その秘密のいくつかについて、語りたいと思います。

2023年秋 春日正利、改訂2024年夏

# サフラン酒・錆絵蔵の最大の魅力は何か？



まずは、「土蔵に多くの錆絵、美しい色彩のバランス」ではないでしょうか。

「わびさび」さえ感じる、ゴテゴテ趣味の対角に位置する美しさを、感じるのでしたが。

渡辺関靖氏撮影

## 衣装蔵と鎧絵蔵の装飾の違い

衣装蔵が、鉢巻に葡萄唐草文、一階、二階の窓飾りに四神と、比較的少ない鎧絵の絵柄であるのに対し、鎧絵蔵は、東の鉢巻に大きな青龍、窓飾りに多くの十二支が飾られています。

鉢巻部、そして土蔵入り口側を含め、18枚の鎧絵です。単に、四神だけではなさそうで、ストーリーが隠されていると感じざるを得ません。

もうひとつの美、葡萄唐草文は別途。

私は、「四神に四靈追加が鍵」だと考えます。

古代中国では、東の青龍、西の白虎、南の朱雀、北の玄武と、方角の守護神としての四靈獸とよばれるグループがあります。

また生き物を鱗、毛、羽、甲の四類に分類し、四つのそれを統括する長(王)を応龍・麒麟・鳳凰・靈亀しとして、四靈獸とよばれます。靈獸は、瑞獸(縁起のよい獸)とされ、世の中が瑞気に満ちて、平和な時代のみに出現するとされました。そして、中央には裸虫(裸の動物、人間)の長として聖人が当てられることもあります。

## 最初の構想

衣装蔵  
の四神

東面二階の窓に鯉、一階の窓に小鳥  
(将来、大成して青龍、朱雀)

北面二階の窓に幼い白虎、一階の窓に玄武

将来の  
事務所蔵  
(鎧絵蔵)  
の四神

鉢巻を含め、五つの鎧絵の場所  
鉢巻には二頭の青龍  
東面二階の窓には二羽の朱雀  
東面一階の窓には白虎と玄武

これが、はじめの構想だったと思います。しかし、…



ところが、朱雀は  
Vermilion Bird で  
あり、赤。

火事を想起してしま  
います。

青い鳳凰に替えると、…



白壁に映えます。



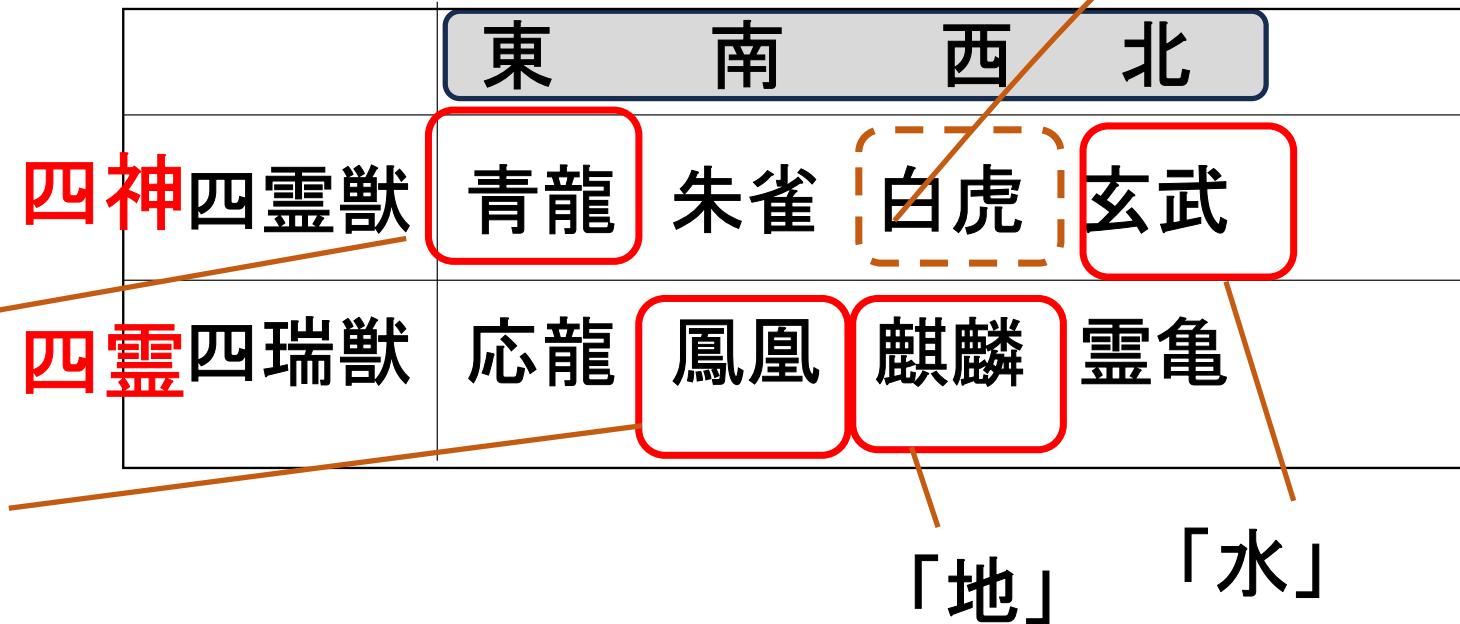
四神の赤い朱雀の代わりに、四靈の青の鳳凰。ここから「**四神に四靈を追加**」に変更したのではと思っています。

錆絵の題材に、  
発想の転換  
～仁太郎ワールドに  
大きな役割

北面  
の二階  
へ

これしかない、東面の「配置」のマジック

方位の守護神と五大思想の反映



「空」「風」「火」「水」「地」

さらに、十二支が勢揃いのマジックも  
可能になりました。説明は現地で。

「鬼瓦」  
は別記

# これしかない、東面の「配置」のマジック

## 方位の守護神と五大思想の反映

	東	南	西	北
四靈獸	青龍	朱雀	白虎	玄武
四瑞獸	應龍	鳳凰	麒麟	靈龜

軒下 四靈獸の青龍 東の守護神 (双龍・昇り龍と降り龍)
二階 四瑞獸の鳳凰 (雌雄一対)
一階 四瑞獸の麒麟、四靈獸の玄武

「空」「風」「火」「水」「地」

# 十二支の勢ぞろいマジック、勢ぞろいしてこそ「五穀豊穰」

子・丑・[寅]・卯・[辰]・[巳]  
午・未・[申]・酉・戌・亥

寅は、四靈獸の白虎に

辰は、四靈獸の青龍に

巳は、四靈獸の玄武に。

四靈獸四瑞獸が  
十二支を兼務し、  
全てが揃って  
五穀豊穰を願う。

すると、申は、四瑞獸の鳳凰、または麒麟かと思うのですが、  
或いは、藏の門を飾る「人間の徳を表わす大黒・恵比寿」かも。

四神に四靈を追加の効果をまとめます。

- ① 赤い朱雀には遠慮願って青い鳳凰
- ② 東面の絵柄の絶妙な配置、方位の守護神と  
五大思想に合致する配置
- ③ 北面・南面を主体に十二支が、  
東面の守護神の兼務 による勢揃い

～ 地域安寧と五穀豊穰

ヒントの最初は、北面の白い寅でした。それが本来は西の守護神、白虎では、と気づいたのです。

すると麒麟の登場が、意味を成してきます。西の守護神の白虎に東面を避けさせ、麒麟に代役としてお出ましを願ったのです。北面に子、丑、寅と、干支の出だしを揃える効果もあり、これが成功したことを伺えます。



十二支は、もともとは穀物の12か月を意味し、寅が「春が来て草木が芽吹く頃のこと」のように、十二支は種が芽吹いて生育、花が咲き実がつき、収穫というサイクルで、毎年の豊作を祈願。十二支は欠けてはいけません。

また訪問する人々に、「自分の干支がない」と悲しませるなんて、商売熱心の創業者が許すはずがないのです。  
よって、欠けてはいけません。

北側2階の動物は、力強い姿勢、  
毛並みなどの外観とも冴えているが、  
それに比べて1階の羊、戌、午は、…。

特に羊、戌は、おかしいのでは？

この羊、ヤギに似ている。

この戌、ネコではないか。

実は、理由があると思っています。

## 属は異なるが、ヤギもヒツジもウシ科ヤギ亜科

角 ヤギには少し湾曲した2本のツノがありますが、  
ヒツジは渦を巻くツノがある。(但し、無いものも多い。)  
これからサフラン酒のは、「ヤギ」か。

顎髭 ヤギには顎髭があり、ヒツジには無い。  
(個体差が大きく、あご髭がないヤギもいるとの  
ことです。 これからサフラン酒のは「ヤギ」か。

尾 ヤギの尾は短くピンと跳ね上がるのに、  
ヒツジの尾は長く垂れ下がっています。  
これからサフラン酒のは「ヒツジ」である。



## 中国のヒツジとヤギ

中国ではヒツジとヤギをもっと近い種類の感覚で捉えているようであり、

漢字表記上でもヒツジは「羊」で、ヤギは「山羊」と書いて「山の羊」扱い。

羊の一種として捉えているようで、干支のキャラクターにもヤギを用いる。

～ だから、ヤギみたいでも、いいのです。

## もうひとつの解釈

この羊、戌が、長岡市栃堀の貴渡神社(たかのり)の彫刻に酷似していることに気づきました。

これは、雲蝶雲蝶の作。

吉澤仁太郎、左官の河上伊吉は、

魚沼・西福寺を何度も見学したと云います。

のみならず、近在の雲蝶さんの彫刻も、

見て回ったのでは。



貴渡神社  
の羊、戌  
(石川雲蝶)



サフラン酒  
の羊、戌



長岡市栃堀の貴渡神社(たかのり)  
植村角左衛門貴渡(かくざえもんたかのり)翁を顕彰

栃尾織物の基礎を築き、縞紬を広めた、祭神貴渡翁を奉るために嘉永元年(1848)建てられた神社です。  
社殿は小さいものの、全体が雲蝶の彫刻で埋め尽くされています。明治2年村有。

この雲蝶の戌は、円山応挙(1733–1795)の、  
もこもこした、かわいい子犬にも似た感じ。



石川雲蝶



円山応挙

江戸期の日本の、代表的な犬種は狆と見なされていたそうです。

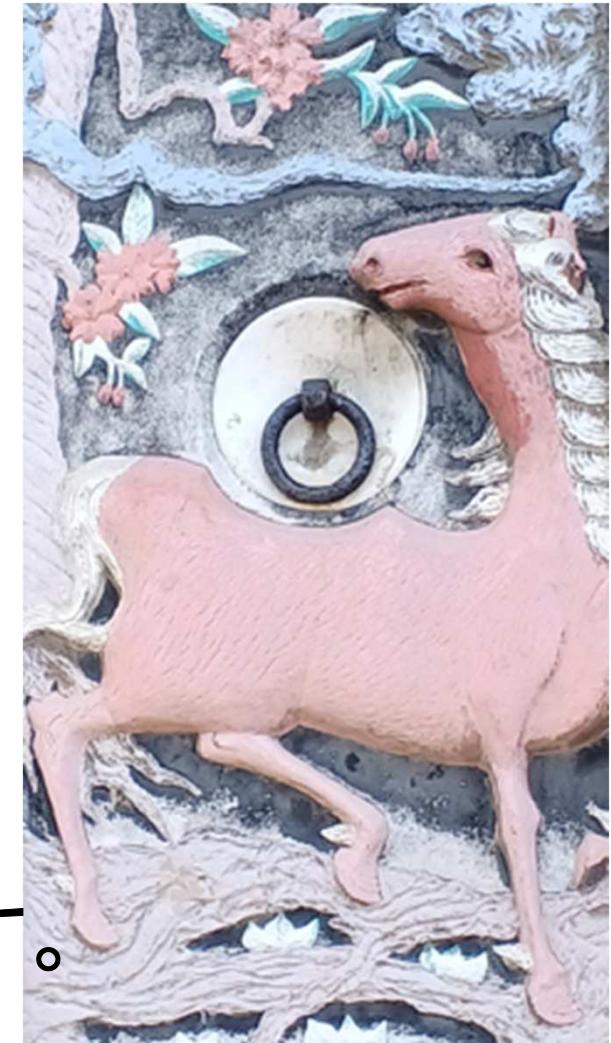
1933年に世界で発刊の「犬の世界地図」で日本の大として紹介されたのが、「狆」。

円山応挙の犬、貴渡神社の石川雲蝶の戌、サフラン酒の吉澤仁太郎/河上伊吉の戌は「狆」かも知れません。

残る疑問は、午なのです。

姿と云い、形と云い、これだけは、  
ほかの作品と同じ作者とは思えない。  
イマイチなのです。

しかも皆、動物に植物を配してますが、  
この「馬に桜」は冗談が過ぎると思います。



足の表現、眼の表現は、いいのですが、  
馬体に力を感じません。  
鎧の技が、伝わってこないのです。

仁太郎さんが、自分の干支の製作に少し  
携わったかと思いましたが、仁太郎さんの  
干支は戌。  
何人かの助手に作らせたかとも、考えています。

何事にも、考えを持ち「意思入れ」をする  
仁太郎さんのことですから、  
絶対に、なおざりにすることはありません。

この午にも、何らかのこだわり、訳があると  
思っています。

